緑小だより
板橋区立緑小学校
特別号（No. 587）
令和８年 11 月２日

令和８年度「各学力調査」の結果報告

板橋区の小学校では、子どもたちの学習状況を把握し、一人ひとりの学力向上をめざして以下の調査を行っています。

○「全国学力・学習状況調査」【文部科学省】

この調査は、全国の小学校６年生を対象にしたもので、４月に実施しました。内容は国語、算数、理科、児童への質問紙からなります。

○「リーディングスキルテスト（ＲＳＴ）」【板橋区】

この調査は、基礎読解力の定着状況を把握するための調査で、区内小学校６年生と区立中学校全学年生徒に実施するものです。６月にパソコンを使って実施しました。

〈本校での各学力調査の達成内容と課題及び改善策〉

全国学力・学習状況調査（６年）より

国語（平均正答率）

分類		区分	緑小	東京都	全国
全体			61	65	60.9
学習指導要領の内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方	62.3	70.4	66.8
		情報の扱い方	55.5	56.7	52.3
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	70.9	70.0	65.8
		書くこと	42.7	50.4	45.7
		読むこと	68.2	68.8	65.9

国語全体については、東京都の平均正答率より-4.0 ポイント、全国の平均正答率より 0.1 ポイント高くなっています。各区分別に見ると、「話すこと・聞くこと」において、東京都、全国の平均正答率を上回っているものの、「言葉の特徴や使い方」「書くこと」の正答率が低く、指導の工夫が求められます。以下は問題別に見た結果です。

正答率の高かった問題	・構成メモの工夫として適切なものを選択する。83.6% ・文の中の漢字「みじかい」を正しく書く。80.0% ・文章を読み、考えたことを自身の経験と結び付けて書く。76.4%
課題の残る問題	・集めた情報から引用し、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。29.1%（無回答率も14.5%と高かった。） ・文脈に合わせた漢字「ふしぎ」を正しく書く。32.7%（無回答率も16.4%と高かった。） ・経験と結び付けて書く記述問題において、何も書かない児童の割合（無回答率）が21.8%と高かった。
改善策	・文章や資料から必要な情報を引用し、「○○から～と分かる」等のひな型（フレーム）を活用して、自らの考えと結び付けて表現する活動を充実させる。また、提示された条件を満たしているか見直すセルフチェックの時間を設ける。

算数（平均正答率）

分類	区分	緑小	東京都	全国
全体		58	63	56.4
学習指導要領の領域	A　数と計算	64.3	68.0	61.1
	B　図形	54.5	63.4	55.3
	C　測定	70.9	82.9	78.1
	D　変化と関係	44.8	49.9	41.1
	E　データの活用	48.6	53.9	48.6

算数全体については、全国の平均正答率より 1.6 ポイント高くなっていますが、東京都の平均正答率より 5.0 ポイント低くなっています。各区分別に見ると、「測定」「数と計算」の正答率が高い一方、「変化と関係」「データの活用」の正答率が低く指導の工夫が求められます。以下は問題別に見た結果です。

正答率の高かった問題	・カードで作る最も大きい小数を求める。94.5% ・５／３を表す目盛りが示された数直線上で、１を表す目盛りを選ぶ。80.0%
課題の残る問題	・直方体の送料の求め方とその答えを記述する。47.3%（無回答率 7.3%） ・混み具合（単位量当たり）の式の意味を選択する。41.8% ・1㎤の立方体 36 個で作る直方体の体積を求める。43.6%（無回答率も 10.9%と高かった。） ・割合と比較量から基準量を求める。50.9%（無回答率も 14.5%と高かった。）
改善策	・単に公式にあてはめて計算するだけでなく、「なぜその式になるのか」「1㎤の何個分か」といった計算の意味や概念を図や言葉で説明する活動を充実させる。 ・二次元表や複数のデータから必要な情報を整理・抽出し、立式や説明ができるよう、条件を整理して解く場面や友達と確かめ合う対話の時間を設ける。

意識調査より（一部）

東京都・全国と比べて良い傾向にあったもの

設問１　朝食を毎日食べていますか。

	緑小	東京都	全国
している	87.5	83.7	83.1
どちらかといえばしている	7.1	9.9	10.2
あまりしていない	5.4	4.7	4.9
全くしていない	0.0	1.4	1.6

設問 23　学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

	緑小	東京都	全国
2 時間以上	23.2	24.1	10.5
1 時間以上、2 時間未満	12.5	12.2	11.1
30 分以上、1 時間未満	23.2	22.5	28.3
30 分未満	17.9	22.6	29.1
全くしない	21.4	17.8	20.2

設問 54　国語の授業の内容はよく分かりますか。

	緑小	東京都	全国
当てはまる	46.4	40.0	36.1
どちらかといえば当てはまる	28.6	41.8	45.4
どちらかといえば当てはまらない	17.9	13.1	13.6
当てはまらない	5.4	4.4	4.2

設問国１　今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。

	緑小	東京都	全国
最後まで書いた	80.4	77.8	79.3
途中まで書いた	19.6	14.1	14.7
書けなかった	0.0	2.3	2.1

課題と捉えられるもの

設問 12　いじめは、どんな理由があってもいけいことだと思いますか。

	緑小	東京都	全国
当てはまる	60.7	78.2	81.1
どちらかといえば当てはまる	25.0	17.3	15.1
どちらかといえば当てはまらない	10.7	2.7	2.1
当てはまらない	1.8	1.0	0.8

設問 20　あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか。

	緑小	東京都	全国
当てはまる	19.6	37.4	39.6
どちらかといえば当てはまる	25.0	29.6	30.0
どちらかといえば当てはまらない	42.9	25.5	24.1
当てはまらない	7.1	4.4	2.3

設問 51　道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。

	緑小	東京都	全国
当てはまる	21.4	46.2	47.4
どちらかといえば当てはまる	42.9	39.7	39.5
どちらかといえば当てはまらない	19.6	9.8	9.2
当てはまらない	7.1	2.7	2.4

設問 49　あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。

	緑小	東京都	全国
当てはまる	10.7	36.3	35.2
どちらかといえば当てはまる	46.4	44.7	46.3
どちらかといえば当てはまらない	28.6	13.9	13.7
当てはまらない	7.1	3.8 7.1	3.5

設問 70　英語の勉強は好きですか。

	緑小	東京都	全国
当てはまる	12.5	37.4	37.8
どちらかといえば当てはまる	14.3	27.7	28.9
どちらかといえば当てはまらない	23.2	19.1	19.0
当てはまらない	46.4	15.0	13.7

本校の児童の傾向として、朝食を毎日食べる割合が 87.5%と非常に高く、ご家庭における規則正しい生活習慣の確立や温かいご協力が得られていることが分かります。また、平日の家庭での学習時間については、「2 時間以上」取り組む児童が 23.2%に達しており、全国平均（10.5%）を大きく上回っています。日頃からの学習意欲の高まりや、ご家庭での学習習慣の定着が大きな成果として現れています。教科の学習面においては、国語の授業内容について「よく分かる」と答えた割合が 46.4%（全国 36.1%）と高く、調査での記述式問題においても最後まであきらめずに書ききった児童が 80.4%にのぼるなど、学びに対する主体性や粘り強さが顕著に表れています。また、算数の授業においても「どのように考えたのか説明する活動」に前向きに取り組んでおり、対話や説明を通した学びの定着が感じられます。今後も板橋区授業スタンダードに基づき、児童が見通しをもって主体的に学べる授業展開を継続して参ります。一方、課題と感じられたこととして、「学級内で異なる意見を言っても否定されないか」「学級会や道徳での対話活動」「いじめに関する認識」「外国語（英語）への親しみ」が挙げられます。特に「人と違う意見を言っても否定されない」という設問では、否定的な回答が半数近くを占めており、全員が安心して自分の考えを発言できる学級風土の構築が急務です。これらの課題に対し、本校では以下の 3 つの柱を中心に取組を推進してまいります。

温かい人間関係と安心できる心理的安全性の構築：学級会や日常の授業活動を通じ、自分と異なる意見や多角的な視点を尊重し合える学級経営を徹底します。「友達の意見を最後まで聴く」「多様な考え方を認め合う」姿勢を育み、誰にとっても心の居場所となる学級づくりを進めます。

道徳教育および人権教育の全校的な推進：「いじめは絶対に許されない」という意識を徹底するため、道徳の授業をはじめ各教科・特別活動・学級活動全体を通して人権尊重の指導を計画的に行います。相手の立場に立った思いやりの心や互いの人格を尊重する態度を育みます。

外国語（英語）教育の工夫と意欲向上：英語に対する苦手意識を軽減するため、デジタル教材やタブレット等を有効活用し、小グループでのやり取りやゲーム・表現活動を取り入れます。スモールステップで成功体験を積み重ね、英語でコミュニケーションを図る楽しさを実感できるよう指導内容・方法の改善を図ります。

1　ＲＳＴ調査の目的

・基礎的読解力の定着状況をＲＳＴ（Reading Skill Test）によって把握し、各学校の読み解く力の向上に向けた取組を行うことにより、学力向上を図る。

・板橋区教育委員会と学校、国立情報学研究所が連携し、一人ひとりの基礎的読解力の変容を継続的に把握することにより、効果的な指導方法を探る。

2　調査内容

「読み解く力」を支える基礎的読解力の分類

【係り受け解析】

捉え	文の構造を正しく把握し、「誰が」「何を」「どうした」が分かる。
問題例	「天の川銀河の中心には、太陽の 400 万倍程度の質量をもつブラックホールがあると推定されている。『天の川の中心にあると推定されているのは（　　）である。』」　→ブラックホール

【照応解決】

捉え	「それ」「これ」などの指示詞が指し示すものや省略されている主語・目的語が分かる。
問題例	「火星には、生命が存在する可能性がある。かつて大量の水があった証拠が見つかっており、現在も地下には水がある可能性がある。『かつて大量の水があった証拠が見つかっているのは（　　）である。』」　→火星

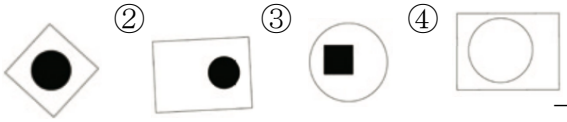
【同義文判定】

捉え	２つの文を比較し、それらが同義か否かを正しく認識する。
問題例	「義経は平家を追いつめ、ついに壇ノ浦で滅ぼした。『平家に追いつめられ、ついに壇ノ浦で滅ぼされた。』」　→同じである

【推論】

捉え	既存の知識と新しく得られた地域から、論理的に判断する。
問題例	「エベレストは世界で最も高い山である。『エルブレス山の高さはエベレスト以下である。』」　→正しい

【イメージ同定】

捉え	提示された文が、どのようなことを表しているかイメージする。
問題例	「次の文の内容を表す図として適当なものをすべて選びなさい。『四角形の中に黒で塗りつぶされた円がある。』」　①　②　③　④　　→①、②

【具体例同定】

捉え	(辞書) 辞書の定義を用いて新しい語彙とその用法を獲得できる。 (理数) 理数的な定義を理解し、その用法を獲得できる。
問題例	「２で割り切れる数を偶数という。そうでない数を奇数という。『偶数を全て選びなさい。 ①　６５　　②８　　③０　　④１１０』」　→②、③、④

3　調査の結果と分析（ＲＳＴを受検した小学生のみ対象とした偏差値換算）

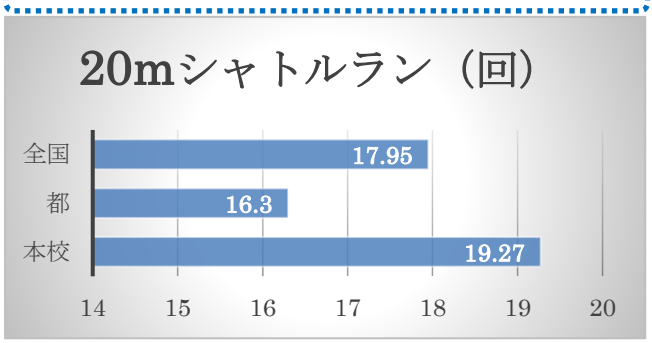
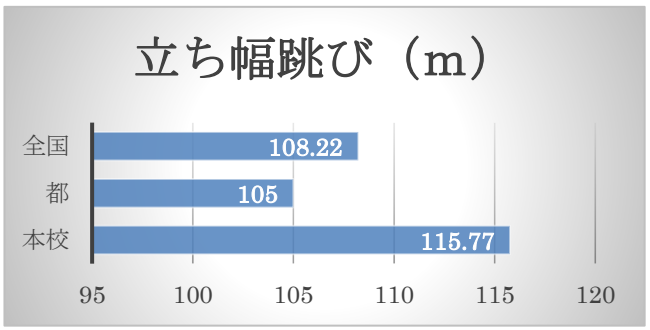
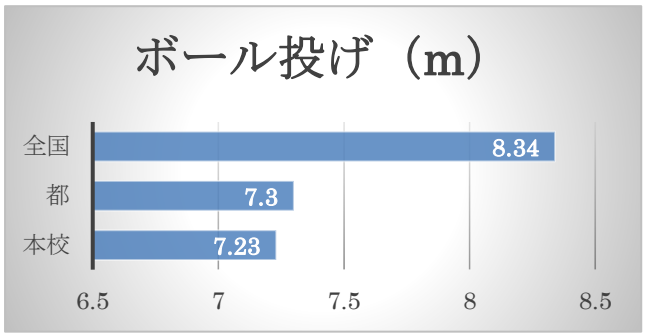
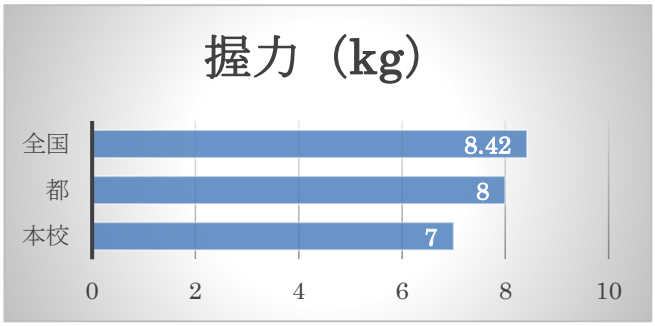
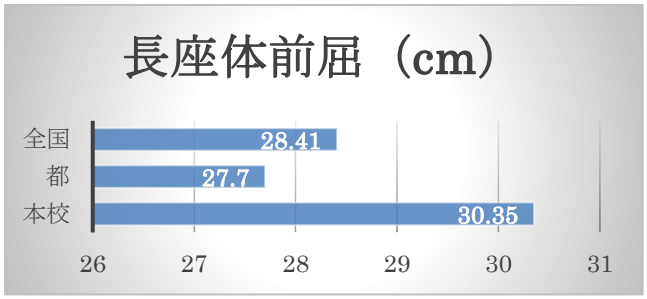
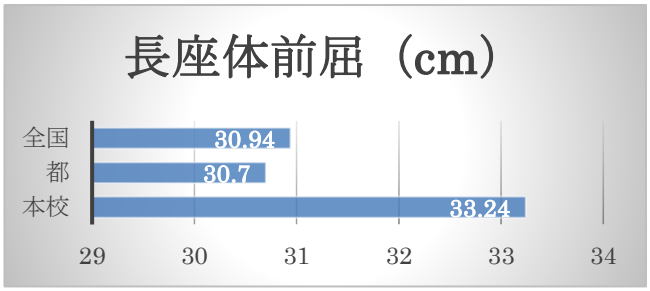
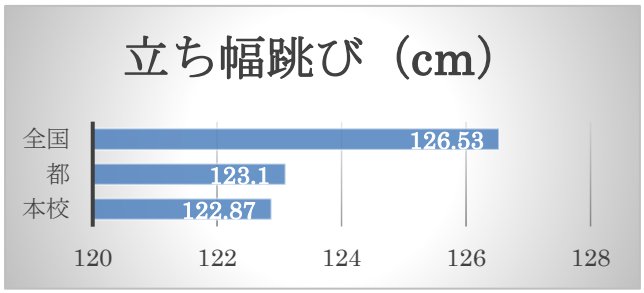
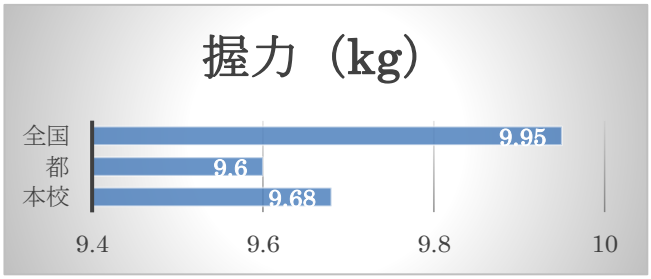
	係り受け解析	照応解決	同義文判定	推論	ｲﾒｰｼﾞ同定	具体例同定	具体例同定(辞書)	具体例同定(理数)
全国の能力値平均	−0.25	-0.39	−0.35	-0.34	-0.15	-0.30	-0.18	-0.29
本校の能力値平均	−0.30	−0.39	−0.41	−0.19	−0.02	−0.10	−0.01	−0.13

本校の結果をみると、イメージ同定や具体例同定、推論で全国平均を上回る一方、係り受け解析と同義文判定は下回り、照応解決は同等にとどまっています。文の基本構造の把握や文の意味の同一性を捉える力に課題が見られます。これは全国学力調査で課題となった「文章や図表を結び付けて必要な情報を読み取り記述する力」とも連動しています。今後は、接続詞に着目させて文章の構造や主従関係を意識させるとともに、各教科で理由と結論を明確にして表現・記述する学習場面を増やし、自らの考えを論理的に伝える「読み解く力」を高めてまいります。

令和８年度「体力テスト」の結果報告

１　調査結果（都の学校票より）

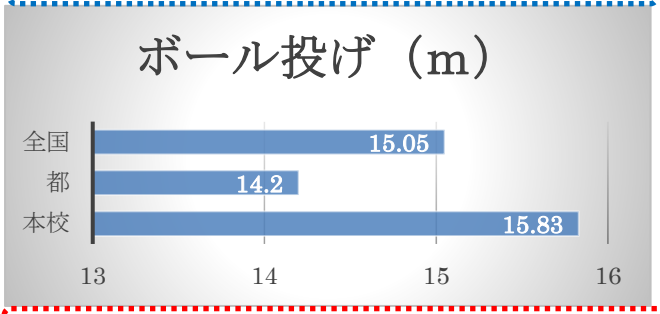
点線　は、男女共通の傾向

学年	男子	女子
１年	20mシャトルランが全国・都平均より高い	立ち幅跳びが全国・都平均より高い
成果		
課題	▼ボール投げが全国・都平均より低い	▼握力が全国・都平均より低い
		
	▼特にボール投げが低い 本校７. 23m、都７. 3m、全国８. 34m → ボールを投げる場面を増やし、投げる手と反対の足を一歩前に踏み出して投げるなど、体全体を使った大きなフォームで投げる運動を取り入れる。	▼特に握力が低い 本校 7kg、都 8kg、全国８. 42kg →固定遊具を使った様々な運動やタオル絞りなどの握る運動を取り入れる。
２年	長座体前屈が全国・都平均より高い	
成果		
課題	▼立ち幅跳びが全国・都平均より低い	▼握力が全国平均より低い
		
	▼特に立ち幅跳びが低い 本校 122. 87cm、都 123. 1cm、全国 126. 53cm →両足ジャンプ、ケンケン、連続ジャンプ、ジャンプ鬼などを行い、「高く跳ぶ」「遠くへ跳ぶ」など目的を変えて楽しみながらできる運動を取り入れる。	▼特に握力が低い 本校９. 68kg、都９. 6kg、全国９. 95kg →固定遊具を使った様々な運動やタオル絞りなどの握る運動を取り入れる。

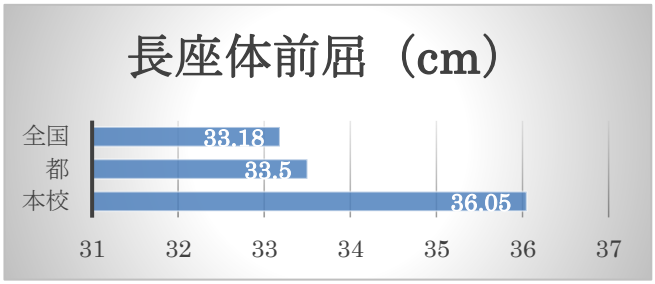
3年

成果

ボール投げが全国・都平均より高い

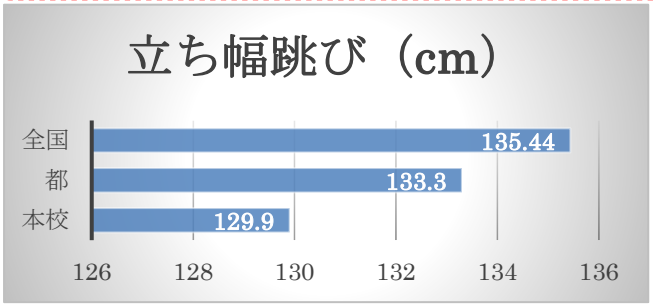


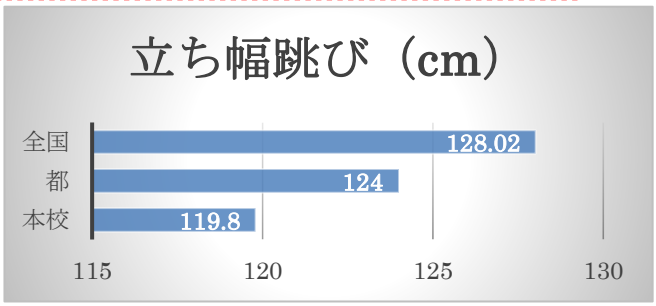
長座体前屈が全国・都平均より高い



課題

▼立ち幅跳びが全国・都平均より低い





▼特に立ち幅跳びが低い

本校 129.9cm、都 133.3cm、全国 135.44cm

→両足ジャンプ、ケンケン、連続ジャンプ、ジャンプ鬼などを行い、「高く跳ぶ」「遠くへ跳ぶ」など目的を変えて楽しみながらできる運動を取り入れる。

▼特に立ち幅跳びが低い

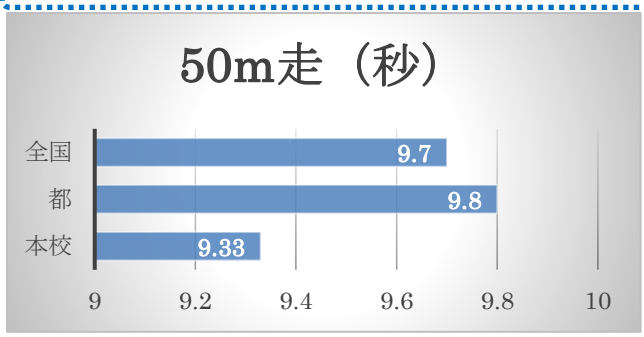
本校 119.8cm、都 124cm、全国 128.02cm

→両足ジャンプ、ケンケン、連続ジャンプ、ジャンプ鬼などを行い、「高く跳ぶ」「遠くへ跳ぶ」など目的を変えて楽しみながらできる運動を取り入れる。

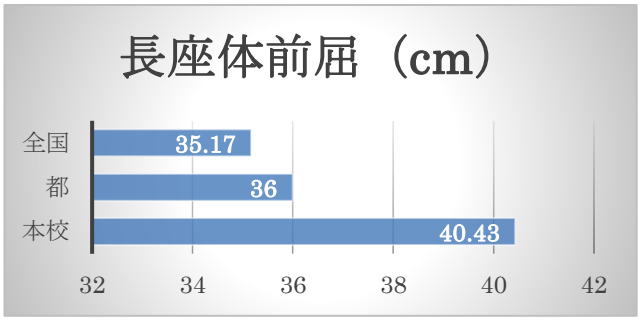
4年

成果

50m走が全国・都平均より高い

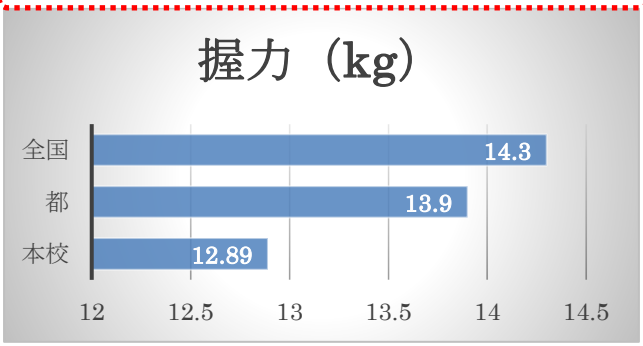


長座体前屈が全国・都平均より高い

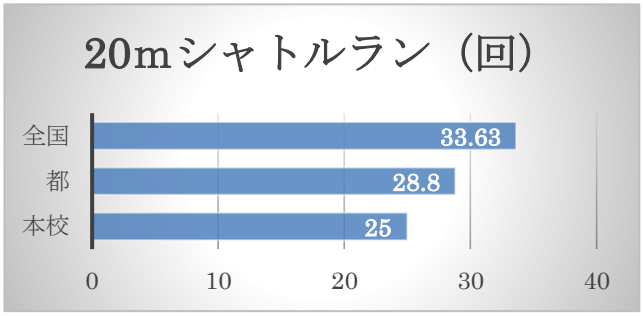


課題

▼合計得点が全国・都平均より低い



▼合計得点が全国・都平均より低い



▼特に握力が低い

本校 12.89kg、都 13.9kg、全国 14.3kg

→固定遊具を使った様々な運動やタオル絞りなどの握る運動を取り入れる。

▼特に20mシャトルランが低い

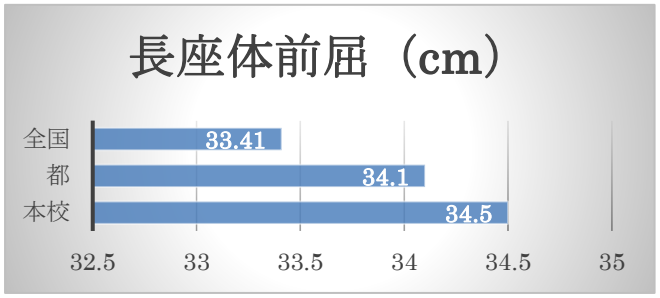
本校 25 回、都 28.8 回、全国 33.63 回

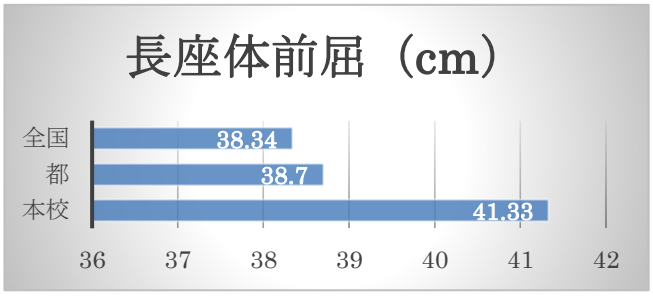
→鬼遊びやリレーなど、楽しみながら体を動かす活動を充実させる。休み時間の外遊びも促進し、日常的な運動習慣を身に付ける。

5年

成果

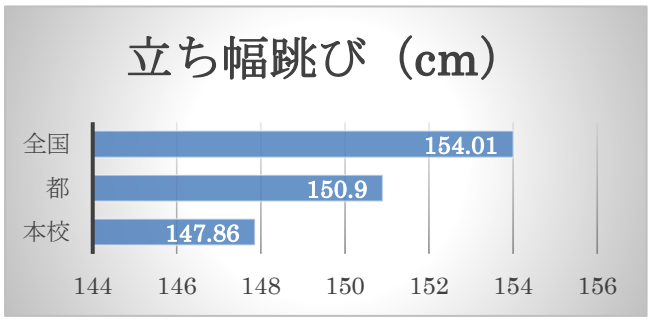
長座体前屈が全国・都平均より高い

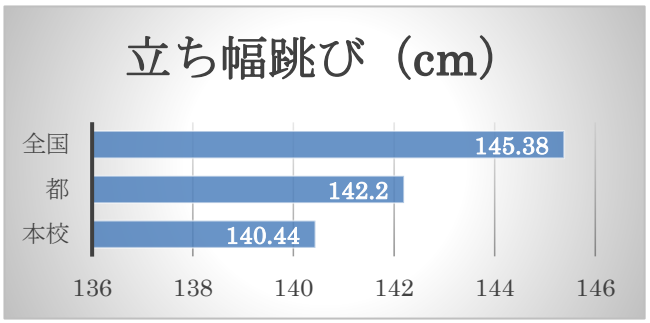




課題

▼特に立ち幅跳びが低い





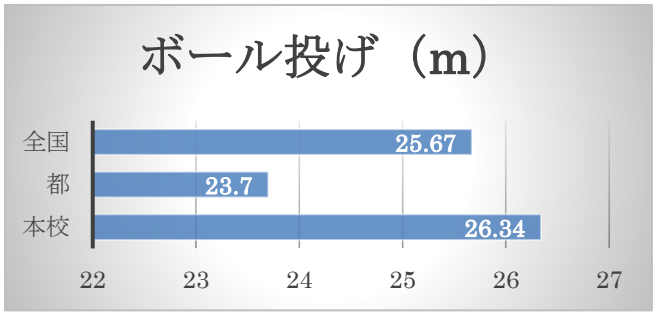
▼特に立ち幅跳びが低い
本校147.86cm、都150.9cm、全国154.01cm
→両足ジャンプ、ケンケン、連続ジャンプ、ジャンプ鬼などを行い、「高く跳ぶ」「遠くへ跳ぶ」など目的を変えて楽しみながらできる運動を取り入れる。

▼特に立ち幅跳びが低い
本校140.44cm、都142.2cm、全国145.38cm
→両足ジャンプ、ケンケン、連続ジャンプ、ジャンプ鬼などを行い、「高く跳ぶ」「遠くへ跳ぶ」など目的を変えて楽しみながらできる運動を取り入れる。

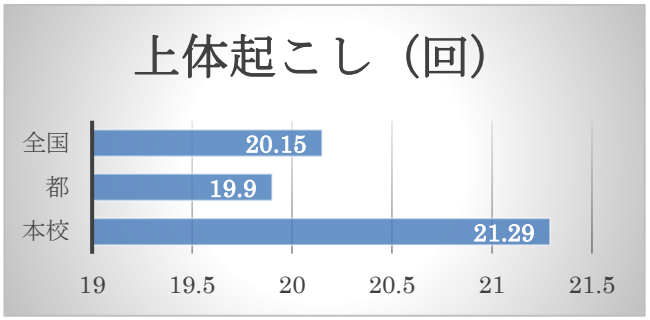
6年

成果

ボール投げが全国・都平均より高い

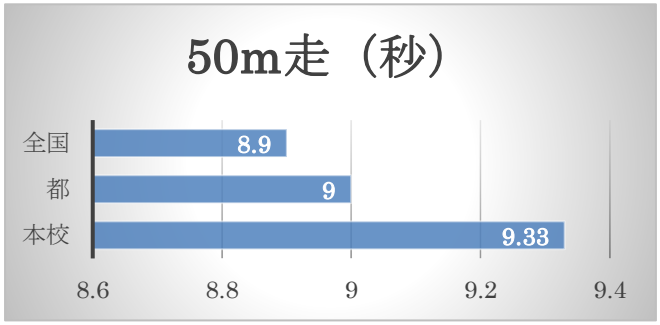


上体起こしが全国・都平均より高い

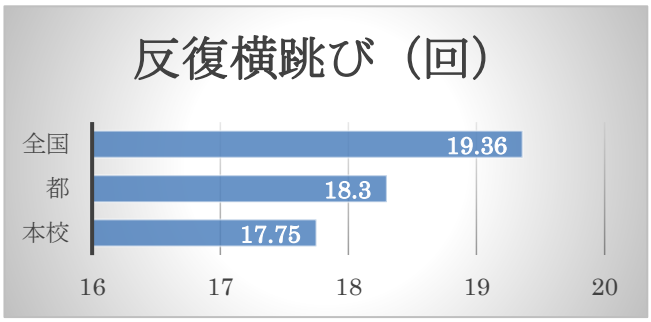


課題

▼特に50m走が低い



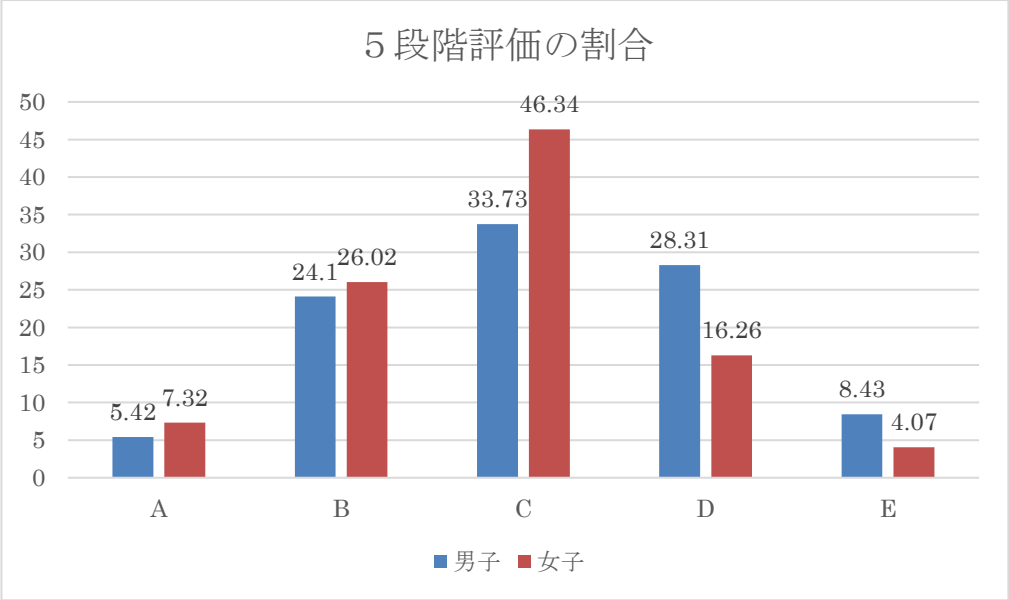
▼特に反復横跳びが低い



▼特に50m走が低い
本校9.33秒、都9秒、全国8.9秒
→走る姿勢や腕の振り方、足の運び方を指導し、短い距離を全力で走る練習やリレーを取り入れる。また、鬼遊びなどを通して走る機会を増やし、楽しみながら走力や瞬発力を高める。

▼特に反復横跳びが低い
本校17.75回、都18.3回、全国19.36回
→手拍子やメトロノーム、またはテンポのある音楽に合わせて動く練習 や、「1・2・1・2」の一定リズムを意識した運動を取り入れる。

２ 学校全体の傾向



５段階評価（A が体力に自信がある児童）では、標準の C の児童が男女共に多く占めている。全体的に山なりの傾向があることが分かった。

全国平均値との比較では、学校全体として全学年・男女共通して「長座体前屈」が非常に優秀であり、ほぼすべての学年（特に３年女子、４年女子、１年～6 年の男女全般）で全国平均値を上回る、または同等以上の高い水準を維持している。要因として、日常的なストレッチや体育の授業前運動などの成果が表れていると考えられる。

立ち幅跳びは、多くの学年（1 年男子、２年男女、３年男女、４年男子、６年男子など）で全国平均と同等以上または上回っている。また、50m 走においても、４年女子や１年女子など一部の学年で全国平均を超える好記録が見られる。

課題としては、「握力」が１年男子・１年女子、４年男子・４年女子、５年男子・５年女子、６年女子など、多くの学年で全国平均を下回っている。日常的に物を強く握る・ぶら下がる・力を入れるような運動機会（遊具遊びなど）の不足が懸念される。また、「ボール投げ」でも１年男子・１年女子、２年男子、４年男女、５年男女、６年女子など、幅広い学年で全国平均を下回っている。ボールを投げる動作や投擲運動に慣れていない児童が多く、肩周りや上半身の使い方に課題が見られる。

３ 今後の取組

○ 体育授業の改善

体力テストの結果を分析し、「投げる」運動・握力向上の強化として、ボール投げや、鉄棒・うんていなどの遊具を活用した握力・腕力の育成していく。

また、跳ぶ、握る、走るといった課題の見えた運動を授業の一部で行う。また、運動を「する」だけでなく、様々な視点（「知る」「見る」「支える」）で関わりをもたせ、興味・関心を高めていく。さらに、４５分間の授業の中で個人の運動量を最大限確保する授業を実践する。

○ 授業外の時間の充実

休み時間は外で遊ぶことを推奨し、体を動かす機会を多くする。また、年間を通して「なわの日」を月に１回設定し、学級で記録向上に挑戦させたり、マラソン旬間を設定し、個人でめあてをもたせたりして、体力向上を目指す。さらに、環境設定として、一輪車、竹馬、フープ、なわとび、ジャンピングボード、ステッピーを自由に使えるようにする。

○ 教員間のチームワーク

子どもの体力向上についての情報を教員間で共有したり、教え合ったりしながら、運動好きな子どもを増やすことにつなげていき、体力向上を目指す。そして、結果数値だけでなく、「休み時間に外で遊ぶ子が増えた」「ボール投げに抵抗感がなくなった」といった行動変容を教員同士で共有していく。